

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録  
(令和6年度 第1回)

- 1 日時 令和6年5月1日(月) 13:30~15:20
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 CSルーム
- 3 出席委員 木島智恵美委員長、守屋佐千子副委員長、中野隆則委員、和泉雅幸委員、岩崎恵委員、和田修二委員(校長)、中島忠相委員(教頭)、金指太一郎委員(校長補佐)

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

和田校長：全校児童は1,030名を超えた。ここ数年は、更に児童数が増加する見込み。

教職員も新たに新任者4名を含む15名が着任され、今泉小に新しい風を吹かせていただきたいと思います。

学校運営協議会委員の皆さんにも忌憚のないご意見をいただき、学校運営を進めてまいりたい。

(2) 委嘱状交付

前委員は令和6年3月31日をもって任期満了のため、全員(和泉雅幸委員、中野隆則委員、岩崎恵委員、守屋佐千子委員、木島智恵美委員、和田修二委員(校長)、中島忠相委員(教頭)、金指太一郎委員(校長補佐))へ委嘱状交付。

(3) 委員自己紹介

(4) 委員長、副委員長の選出

委員長に、木島智恵美委員を選出。

副委員長に、守屋佐千子委員を選出。

(5) 学校運営協議会についての説明

和田校長：(海老名市学校運営協議会規則及び文科省のコミュニティ・スクールの資料をもとに説明)

(6)【協議事項①】学校運営の基本方針について

和田校長：学校教育目標の「かしこく やさしく たくましく」及びめざす学校像「一人ひとりの個性を大切に作る学校」を継続する。

また、海老名市教育員会教育ビジョンで「誰ひとり取り残さない教育」の実現を掲げたことから、校内研究推進委員会において、共生社会・インクルーシブな学校づくりに向けて「誰もが安心して主体的に学び、共に育つ学校づくりへ」を校内研究テーマに取り組む。

(別紙資料「令和6年度海老名市立今泉小学校」、「令和6年度 海老名市立今泉小学校グランドデザイン」、「令和6年度 学校教育活動について」をもとに説明)

岩崎委員：体育館の改修工事が予定されているが、体育の授業で体育館は使用出来ないのか？

和田校長：体育館でなければ出来ない単元の授業は、改修工事に入る前に行う。どうしても、室内にて行うものについては、プレイルームやオープンスペースを使用予定。

中野委員：家庭科など、専門的な技術を必要とする教科については、教科担任制を導入すべきでは？

和田校長：家庭科専科の先生はいないが、交換授業を取り入れ、先生の負担が軽減できるよう配慮している。

和泉委員：タブレットの持ち帰りした場合の通信料はどうしているのか。

和田校長：ほとんどの家庭にWi-Fi環境が整っている、通信料は家庭負担。

守屋委員：教材費の対象はどこが決めているのか。

和田校長：市教育員会が決めている。なお、裁縫セットは個人負担となる。

守屋委員：けん盤ハーモニカは？

和田校長：保護者が用意するものになる。

守屋委員：各学校で必要なものはどのように決めているのか。

和田校長：学年ごとに教材費の上限額が決められており、その中で先生方が協議の上決定している。

木島委員：体育館の改修箇所は決まっているのか。扉が故障しているので、併せて直して欲しい。

和田校長：設計の際に要望していく。

委員長：「令和6年度学校運営の基本方針について」承認でよろしいか。

各委員：(全員拍手) ～ 承認 ～

— 和泉委員中座 —

※②「学校運営協議会実施計画について」承認の旨発言

(7) 【協議事項②】 学校運営協議会実施計画について

和田校長：別紙資料「海老名市立今泉小学校 令和6年度学校運営協議会実施計画(案)」に基づき説明

守屋委員：インクルーシブは、言葉でいうのは簡単ですが、実践にあたっては、人も必要。今後、どう進めていくのだろうかと考えている。

木島委員：民生児童委員の会議でも、インクルーシブが分からず、今後検討していこうという話が出ている。まだまだ浸透しておらず、多くの方が知らないのではないか。

和田校長：数字で表せないが故に難しいと思う。

守屋委員：支援級は理解出来るが、インクルーシブとなると難しい。

岩崎委員：インクルーシブについては、ぼんやりとした印象。現状はどうなっているのか。

和田校長：本校では、支援級(しいのみ級)を種別や人数により7クラス設置している。

内訳は、①知的、②情緒、③肢体不自由、④虚弱で、教員と一般の方(地域のみなさん)とでは、とらえ方が違うのではないか。

教員は、障がいのある児童も他の児童とともに学んで欲しいと考えている。

中野委員：地域でもその様な状況は知っている。しかし、地域の皆さんは、障がいがある人の中で学校生活をおくるのは大変ではないかと感じている。

和田校長：インクルーシブは、分離教育の反対側にあるものと考え。金指校長補佐はどのようにとらえているか？

金指委員：周囲の人が、出来ないことを理解し、違いを互いに認め合えることが普通になる社会と考える。

和田校長：違いを認め合うということは当たり前のことだが大変なこと。人が必要ですし、負担も大きい。

木島委員：インクルーシブをどのように進めるかが課題とを感じる。

和田校長：皆さんの声を取り入れながら進めていきたい。

中島教頭：国連から日本はインクルーシブの面で遅れていると言われている。今泉小では、インクルーシブの研究を進めている先生たちの中でもその効果を感じてきているのではないか。引き続き研究を進め、市内全校に普及することが出来たらと思う。

和田校長：先生たちのとらえ方が、「困った子」から「困っている子」に変わりつつある。

木島委員：先生たちも大変。本音を話す機会も必要ではないか。

和田校長：今年の4月からコーディネーター二人制に変更した。今後も子どもや保護者のニーズに対応する支援を考えている。

委員長：「学校運営協議会実施計画について」承認でよろしいか。

各委員：(全員拍手) ～ **承認** ～

#### (8) 情報提供等

岩崎委員：集団登校と個別登校ではどちらが良いと考えているのか。

和田校長：安全な通学方法の選択については、子ども（家庭）の責任と考えている。  
安全に登校出来るのであれば、どちらでも良いと考えている。

岩崎委員：学校に保護者からの意見はあったか。

中野委員：自転車に乗る方のルール違反が多く、危ない場所も多い。

和田校長：登下校の安全は保護者の責任と考えている。

守屋委員：教員の勤務時間が変更になったと聞いたが。

和田校長：8：30～17：00を実際の勤務実態に合わせて8：20～16：50に変更した。

また、今フェスや各種行事については、学校、地域、PTAの協力が欠かせない。

岩崎委員：現在のPTAの加入率は50%くらい。役員を置かない体制で運営していることを知らない方も多い。

中野委員：PTA広報紙でPRしたらどうか。また、懇談会で保護者が集まる際に学校放送的なことも一つの方法では。

岩崎委員：少しずつ取り組んでいきたい。広報ボランティアにも話したい。

木島委員：今フェスのPRは決まっているか。保護者ボランティアに周知したいが。

和田校長：1か月前にチラシを配付したい。

木島委員：そのあたりでボランティア募集をかけて欲しい。

和田校長：了解した。については、今年は早めにチラシを配付出来るよう努める。

#### (9) 閉会

守屋副委員長より閉会のことば